

第 2 回四国中央市総合計画審議会 会議録

日 時	令和 3 年 12 月 16 日(木) 午後 7 時 00 分~午後 8 時 45 分		
場 所	四国中央市消防防災センター 3 階大会議室		
出席者	【委員】(敬称略) 内村浩美、木村康久、眞鍋一慶、後藤正、近藤善春、村上智子、寶利佳代、 星川光代、篠原徹、清家孝、金崎佐和子、森実純夫、藤田恭二、石村聡美 (欠席:森川隆)		
	【市】 安部総務部長 政策推進課:石川課長、大西課長補佐、坂田課長補佐、 大西係長、水田主査、篠永主事、平岡主事		
傍聴の可否	傍聴可能	傍聴者数	8 名
会議次第	1 開会 2 会長あいさつ 3 議事 (1) 第三次総合計画基本構想(素案)について (2) その他 4 閉会		
配布資料	・次第 ・委員名簿 ・資料 1 第三次総合計画素案 ・資料 2 アンケート調査結果報告書 ・資料 3 統計データ資料		

【会議概要】

発言者	内容
	1 開会
	2 会長あいさつ
	3 議事
事務局	(1) 第三次総合計画基本構想(素案)について「資料 1 第三次総合計画素案」「資料 2 アンケート調査結果報告書」「資料 3 統計データ資料」により説明
	質疑・応答
村上委員	将来人口の見通しを見たところ、令和 2 年度国勢調査の結果が国立社会保障・人口問題研究所の推計より下回っているが、今後の人口減少対策はどのように考えているか。また、第三次総合計画では人口減少対策は施策の柱のどこに位置づけるのか、担当課はどこになるのか教えてほしい。
事務局	重点的に実施してきた若者の UIJ ターンの促進を強化し、移住者の獲得に向けて具体的な施策を今後検討していく。また、人口減少対策の施策の位置づけは、少子化対策を「④生涯安心して暮らせるまちづくり」、移住・定住の促進を「②活力と魅力を創るまちづくり」に位置づける予定であるが、6 つの柱全てが人口減少対策に繋がる。現状、各課が実施している人口減少対策については政策推進課で取りまとめているが、今後も全庁的に取り組む課題であると考えている。
篠原委員	高齢化社会に対応するために、行政が医療や介護と連携する必要があるため、序論や基本構想で記載してはどうか。土地利用の方向で前回の計画と同様に図解を記載したほうがイメージしやすいと思う。障がいというワードが序論・基本構想で記載されていないため、記載してはどうか。
事務局	篠原委員からいただいたご意見を前向きに検討する。
金崎委員	まちづくりの課題で、時代の潮流で記載されているような最新のワードを記載してはどうか。また、今後 10 年間の計画を策定する中で、どの部分を重点的に取り組むよう考えているのか。
事務局	金崎委員からいただいた意見を前向きに検討する。今回の基本計画の策定にあたっては、高校生からアンケートやワークショップにて多くの意見を頂いた。10 年後若い世代が本市に帰ってきたいと思えるよう、人口減少対策に繋がる施策を重点的に展開していきたい。
内村会長	高校生ワークショップとアンケートの前向きな意見で差を感じるが、アンケートの際に事務局から事前レクチャーは実施したのか。
事務局	事前レクチャーは実施していない。
森実委員	人口減少している理由として、自然動態や社会動態の数値を分析しているな

	ら教えてほしい。
事務局	自然動態について、例年の死亡数が約 1,100 人で推移しており、出生数は平成 28 年が約 650 人で例年約40人ずつ減少しており、傾向としては右肩下がりとなっているが、令和2年は564人と少し盛り返している。社会動態については、景気の動向など社会全体の影響もあるが、例年約100後半から 300 前半の間で減少している。
木村委員	SDGsというワードが盛り込まれているが、今後、市として企業等に SDGsの推進に取り組む予定はあるのか。
事務局	SDGsの取り組みについて、今年度は職員研修等を実施し庁内での啓発に努めている。計画段階ではあるが、SDGsの推進に向けて、推進プラットフォームやパートナー企業認定制度等を検討している。
	(2) その他
事務局	次回の審議会は令和 3 年 12 月 22 日(水)に「公共施設等総合管理計画の改訂について」開催予定である。
	4 閉会
	終了